

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ  
市議団ニュース

<第3回定例会>

2016年10月27日

No. 168

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 市営住宅が建て替え(2000年以降)で1,264戸削減— 申し込みは15.5倍も、削減やめよ

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は24日、決算特別委員会で市営住宅について質問しました。

市は、老朽化した市営住宅を順次建て替えています。太田議員は、「東区の伏古団地の建て替え計画で、現在18棟690戸が16棟600戸へと90戸も減っているが、なぜか」とただしました。

杉村住宅担当部長は、「管理戸数は現状維持を基本」といつつ「新たな入居需要に対応するものではない」と、空き家分は現状維持の対象ではないという考えを示しました。

太田議員は、「この間の建て替えで2006年からはじまった幌北団地は451戸から372戸、2015年からの月寒F団地は189戸から172戸、2000年からの下野幌団地は3,273戸から2,195戸へ、97棟1,264戸も減ってしまう」と指摘、「市営住宅の申し込み倍率は2015年で15.5倍にもなっている」と一方的な削減を批判、「建て替えによる戸数の削減はすべきでない」とただしました。

杉村部長は、「建替えによる削減で入居を希望している市民に影響があってはならない」「慎重に検討しすめたい」とのべました。

関連して、東雁来団地3号棟の建設について、太田議員は「下の子が中学を卒業したら退去しなくてはならないという問題から1・2号棟の建設に反対したが、唯一新設される市住であり、子育て世帯の貧困化がすすむなかで入居者からも喜ばれている」として賛成したとのべました。

また、太田議員は、市営住宅の駐車場について「入居者の利用が減っており利用率が100%は1カ所だけ」とのべ、一方、「来訪者の駐車場が少ない」「駐車場に止めるクルマの幅が1.8mの規定では利用できず民間の駐車場を借りている」という声も紹介し改善を求めると、杉村部長は「検討したい」とのべました。

## 市民に負担を求め市電の発展に水を差す、料金値上げは撤回すべき

小形かおり議員が質問

日本共産党の小形かおり議員は21日、決算特別委員会で市電乗車料金の値上げ(現行170円を200円)について質問しました。

小形議員は、代表質問での市長答弁で、「環境に優しい市電は、利便性の向上を図ることにより利用促進することが重要」「ループ化の効果を検証したい」とのべたが、「わずか400mの延伸で料金の値上げは利用抑制につながる」とただしました。

菱谷交通局事業管理部長は、「経営の安定化をはかるため運賃改定が必要」と答弁。小形議員は「値上げの前に、いかに多くの方に市電を利用してもらうのか」「市民負担の前に経営努力を考えるべき」と指摘し、「市電沿線の商店街や市内中心部の活性化につなげ、観光客がさらに利用できるようにすべき」と求めました。

小形議員は、「路面電車の3方面(JR札幌駅・苗穂駅・桑園駅)延伸の具体化が示されないままの料金値上げは、市電の発展に水を差すもの」と迫りました。菱谷事業管理部長は「3億円の赤字解消へ、経営健全化など持続可能な運営に必要」と答えるにとどまりました。

小形議員は、「『環境首都』をめざす札幌が市電延伸の具体策も示されないなかでの料金値上げは市民の理解を得られない、値上げを求める条例案は撤回すべき」とのべました。